

1. 実況上の着目点

① 日本の東の500hPa 5400m付近に-18℃以下の寒気を伴った寒冷渦があって東進。この寒冷渦直下には発達した低気圧があって東北東進。北日本では気圧の傾きが大きくなっており、風が強き波が高く、しけとなっている所がある。東日本太平洋側でも低気圧からのうねりが入り、波が高くなっている所がある。

② 朝鮮半島付近の500hPa5700m付近にトラフがあって東進。対応して黄海に前線を伴った低気圧があって東北東進。東シナ海では、低気圧や前線に向かって日本の

南の高気圧の縁を回る下層暖湿気（20日9時の石垣島の高層観測では850hPa θ e336Kを観測）が、沖縄の南から流入。先島諸島の北の海上では活発な雷を伴って猛烈な雨を解析。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① 1項①の寒冷渦は日本の東をゆっくり東進し、21日にかけて日本のはるか東に進む。対応して、1項①の低気圧も21日に日本のはるか東に進む。このため、北日本では気圧の傾きが大きく、20日は風が強く吹き、21日にかけて波が高くなる。北日本は強風や高波に注意。

② 1項②のトラフは浅まりながら20日夜には東日本に進んで不明瞭化。対応して1項②の低気圧は、20日夜にかけて黄海で前線が閉塞し、トラフの不明瞭化に伴い21日中に黄海で不明瞭となる。その後、21日夜にかけて前線は停滞前線となって東シナ海から日本の南を通り、伊豆諸島付近にのび、前線上に別の低気圧が発生して日本の南に進む。これらの低気圧や前線に向い、850hPa θ e336K以上の下層暖湿気が流入、大気の状態が不安定となる所がある。特に低気圧の暖域の九州の西では850hPaの風速が最大50kt前後となって下層暖湿気の流入が強まり、対流雲が発達して降水が予想よりも強まるおそれがあることに留意。西日本では21日にかけて、落雷や突風、短時間強雨に注意。伊豆諸島では21～22日は、落雷や突風、短時間強雨に注意。また、西日本では、21日にかけて、1項②の低気圧や前線周辺で気圧の傾きが大きくなるため、風が強く吹く所がある。強風に注意。

③ 南西諸島では21日にかけて、1項②の低気圧や前線に向かって高気圧の縁を回る850hPa θ e336K以上の下層暖湿気の流入が続くため、大気の状態が非常に不安定となって、強い雨の降る所がある見込み。落雷や竜巻などの激しい突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

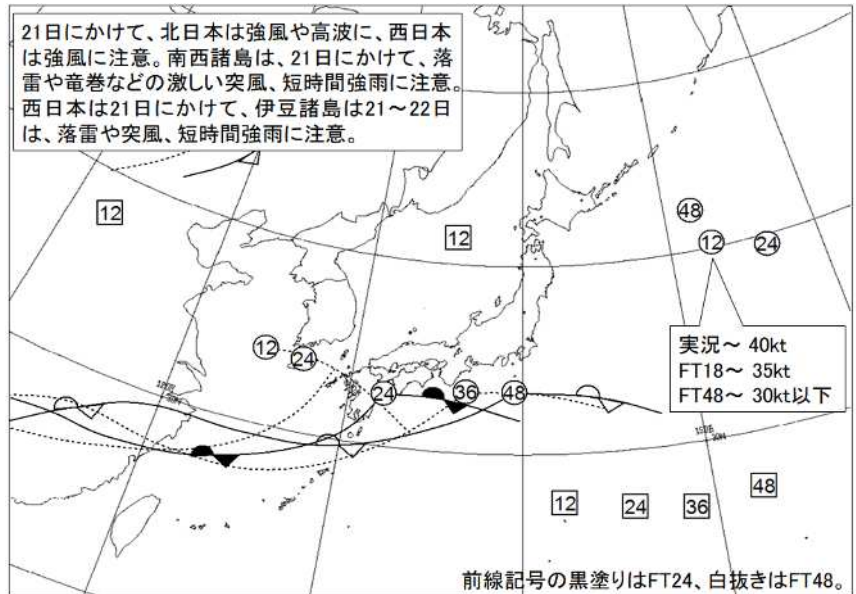
4. 防災関連事項【量的予報と根拠】

①大雨ポテンシャル(18時からの24時間)：九州南部100mm。

②波浪(明日まで)：北海道4、九州北部・東北3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。



主要じょう乱解説図